

モニタリング調査結果の検証

地域の防護の確保の検証・評価

はじめに

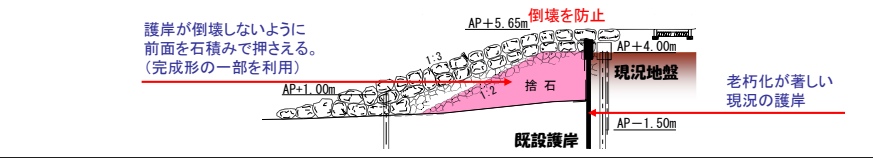
個別目標：防護・・・地域の防護の確保

目標達成基準

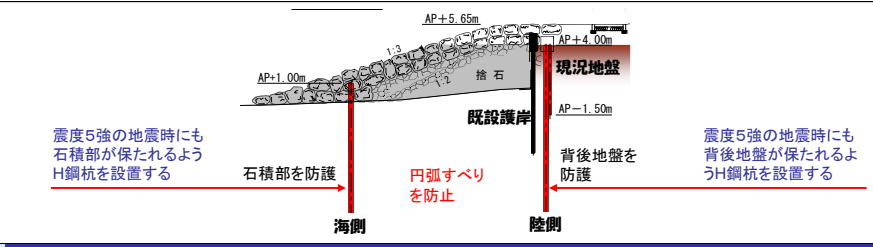
高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保されること。

1. “防護”に対する4つの指標

- ① “緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
 ◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。

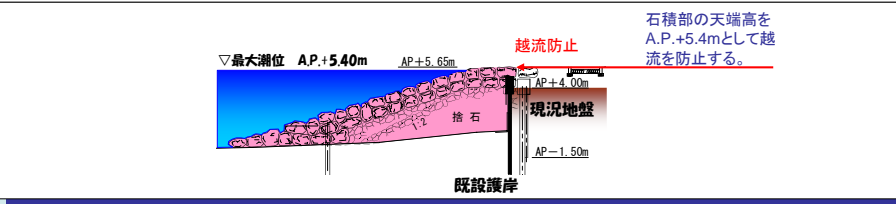


- ② “耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
 ◇海側 : 震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
 ◇陸側 : “ ” 背後地盤 “ ”

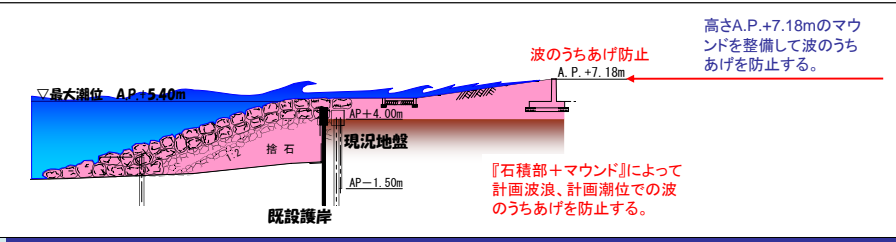


2

- ③ “最大潮位での”越流防止”への指標
 : 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
 ◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



- ④ “高潮災害防止”への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
 ◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



3

2. 検証基準

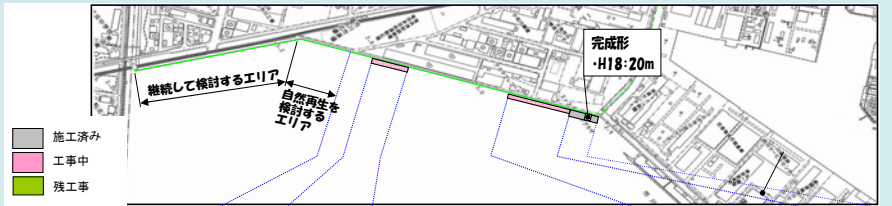
目標達成基準

地域の防護の確保に関する検証基準は、事業計画を踏まえて以下のとおりとする。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成22年度頃	塩浜2丁目	地域の防護に対する4つ指標がそれぞれ施工延長900mにわたって、 ①緊急対応への指標 100% ②耐震の指標 100% ③越流防止への指標 100% ④高潮災害防止への指標 75.2% を確保すること。

注)④のAP.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、平成22年度までの事業に含まれないため、最終目標値は $(5.4 / 7.18) \times 100 = 75.2\%$ となる。

3. H19年度工事の検証結果(工区ごと)



工種・箇所区分	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事 捨石+H鋼杭(倒壊防止)		120m					230m		100m
被覆石(バリエーション)									20m
陸城工事 H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)									80m
被覆石(バリエーション)									20m
すりつけ区間 91m 2工区 120m 未着手 356m 1工区 230m 60m									

	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況
①緊急対応	無し	0.0%	有り	100.0%	無し	0.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%
②耐震(H鋼杭:海陸)	無し	0.0%	一部有り	18.5%	無し	0.0%	海側のみ	50.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	海側のみ	50.0%
③越流防止(+5.4m)	無し	0.0%	4.0m	74.1%	0.0m	0.0%	4.0m	74.1%	3.0m	55.6%	5.4m	100.0%	4.0m	74.1%
④高潮災害防止(+7.18m)	無し	0.0%	4.0m	55.7%	0.0m	0.0%	4.0m	55.7%	3.0m	41.8%	5.4m	75.2%	4.0m	55.7%

4. H19年度工事の検証結果(指標ごと)

- ① "緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
 ◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。 ⇒ 50.2/100
- ② "耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
 ◇震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
 ◇震度5強の地震時にも背後地盤が保たれるようH鋼杭を設置する。
 ⇒ 25.3/100
- ③ 最大潮位での"越流防止"への指標
 : 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
 ◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。
 ⇒ 36.5/100
- ④ "高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
 ◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。 ⇒ 27.5/75.2

6

5. H19年度工事の評価

目標達成基準	高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保されること。	
↓		
検証結果	① "緊急対応"への指標 ⇒ 50.2/100 (11.1/100)	
	② "耐震"への指標 ⇒ 25.3/100 (10.0/100)	
	③ 最大潮位での"越流防止"への指標 ⇒ 36.5/100 (7.6/100)	
	④ "高潮災害防止"への指標 ⇒ 27.5/75.2 (5.7/75.2)	
注)カッコ内はH18年度		
↓		
防護の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・H18年度に対する数値は大きく向上している(最大で4.8倍)。 ・目標達成年(H22年度頃)までの達成を考え、効率的で効果的な工事の進め方について、周辺環境に配慮しつつ検討していく必要がある。 	

7

参考. H20年度実施計画(案)での達成見込

項 目	目標値 (%)	H18	H19	H20		
				1案	2案	3案
① "緊急対応"への指標	100	11.1	50.2	89.9	89.9	89.9
② "耐震"への指標	100	10.0	25.3	70.0	63.9	66.1
③ 最大潮位での"越流防止"への指標	100	7.6	36.5	65.9	68.8	68.9
④ "高潮災害防止"への指標	75.2	5.7	27.5	49.6	51.7	51.8

注)H20年度

1案 : 完成形なし案

2案 : 完成形100m案

3案 : 完成形 40m案